

# 巻頭言「教育福祉心理学科」から「子ども教育学部」へ

臨床心理学部 学部長 香川 克

本誌は、京都文教大学臨床心理学部の中に教育福祉心理学科が設置されることと連動しながら創刊し、その後も同学科のスタッフの研究活動を報告することを使命としながら継続してきた。その教育福祉心理学科は、2020年度に「子ども教育学部」として、保育士・幼稚園教諭・小学校教員の養成を担う「学部」として、新たに再編される予定である。

2020年は、新しい学習指導要領が小学校で全面实施される年でもある。社会の変化に応じる形で、幼児・児童の育ちに関わる新しい試みが、様々な形で今後大きく展開していくことが予想される。

この「社会の大きな変化」や、「それに対応した新しい試み」は、子どもたちの育ちにどのように影響を及ぼしていくのであろうか。現時点で、平成30年の社会の変化の中で、子どもたちを育てる営みは、十分に機能することが難しくなっているように思えてならない。おそらく、この傾向は一層進んでいく。それだけに、「新しい試み」への期待は非常に大きくなってきている（しかし、うまくいくのだろうか?）。

本誌の今号には、児童福祉・保育・幼児教育・初等教育に関する、こうした「新しい試み」が紹介されている。このような研究が、これからの子どもたちの育ちに資することを願ってやまない。そして、新しく本学に設置される予定の新学部「子ども教育学部」が、研究・教育・養成の大きな拠点となることを願う。

